

8 活用する自立語 動詞 (2)

名前

年組番

100点

1 〔自動詞・他動詞〕 次の文から動詞を抜き出し、自動詞はア、他動詞はイと書きなさい。

各完答 5点×5

- ① 友達がハンカチを落とす。 ( )
- ② 友達のハンカチが落ちる。 ( )
- ③ 美しい花を室内に飾るつもりです。 ( )
- ④ ろうそくの火が消える。 ( )
- ⑤ 昼休みに音楽を流す。 ( )

2 〔可能動詞〕 — 線の動詞のうち、可能動詞になるものは書き換え、可能動詞にならないものには×を書きなさい。

5点×4

- ① 飲み物を買う。 ( )
- ② まじめに働く。 ( )
- ③ 言い方を変える。 ( )
- ④ 子どもが外で遊ぶ。 ( )

3 〔補助動詞〕 次の文から補助動詞（形式動詞）を三つ抜き出さない。

5点×3

初めて出会う料理を食べてみることは少々勇気がある。食は、文化に深く結びついているもので、地域によって大きく変わってくるものだからだ。

( ) ( ) ( ) ( ) ( )

4 〔動詞〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) 各完答 5点×8

私が、中学二年生でこのクラスの一員となつて、もう半年以上が過ぎた。この半年の間に、クラスの友達との交流が増えて、学校生活は充実してきた。春先に行われたクラス対抗の合唱コンクールのおかげで、それまで音楽に興味のなかった私は、歌を歌う楽しさを知る③こととなった。四月当初、顔見知りの二、三人としか話せなかった私だが、今はクラスのだれとても気軽に会話ができるようになった。

(1) — 線①～③の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )

(2) — 線①～③の動詞はア自動詞、イ他動詞のどちらですか。記号で答えなさい。

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )

(3) 文章中からア可能動詞とイ補助動詞を、そのまま一つずつ抜き出さない。

ア ( )

イ ( )

8 活用する自立語 動詞 (2)

解答

- 1 ① 落とす イ  
② 落ちる ア  
③ 飾る イ  
④ 消える ア  
⑤ 流す イ
- 2 ① 買える  
② 働ける  
③ ×  
④ 遊べる
- 3 みる いる くる
- 4 ① ① 上一段活用 連用形  
② ② 下一段活用 連用形  
③ ③ 五段活用 連体形  
(2) ① ア ② ア ③ イ  
(3) ア 話せ イ き

名前

年組番

100点

解説

- 1 自動詞は、主語自身の動作、作用を表し、他動詞は、主語とは別のものに働きかける動作、作用を表す。他動詞は「くを」という、対象を示す語を伴う。
- ① 「ハンカチを」が動作の対象になる。
- ②・④ 動作の対象を示す語がない。
- ③ 「花を」が動作の対象になる。
- ⑤ 「音楽を」が動作の対象になる。
- 2 可能動詞は、可能の意味を表す動詞である。五段活用の動詞だけが可能動詞になる。可能動詞はすべて下一段活用である。
- 3 補助動詞は「く(て)」に続く形で、すぐ前の文節を補助する動詞である。補助動詞は、本来の意味がうすれて用いられる。「食べてみる」「結びついている」「変わってくる」
- 4 ① ① 「過ぎナイ」(未然形イ段) ↓ 上一段活用。  
「た」に続くので連用形。  
② 「増えナイ」(未然形エ段) ↓ 下一段活用。  
「て」に続くので連用形。  
③ 「知らナイ」(未然形ア段) ↓ 五段活用。  
体言に続くので連体形。  
(2) ①・② 動作の対象を示す語がない。  
③ 「楽しさを」が動作の対象を示す。  
(3) ア 「話せる」は「話すことができる」という意味である。  
イ 「充実してきた」の「きた」が、「く(て)」に続く形で、すぐ前の文節を補助している。「き(補助動詞) + た(助動詞)」となる。